

よね。米韓合同の大規模軍事演習を境界線ぎりぎり延々やられたら、身構えざるを得ない。北は、朝鮮戦争の休戦協定を平和協定に転換することを何度も提起してきたが、米国は応じてこなかった」

―時を同じくして、自身の全集(12巻)刊行が始まりました。

「記憶にないものまで拾い集められて、出版が立ち消えになった『日本風土記Ⅱ』の原稿も大半がそろって。晴れがまし過ぎるけど、僕の生の痕跡が一本の縄でつながったのかな、と…」

「日本による植民地統治は36年に及んだが、それが人間をどのように変えるのか、ほとんど関心を持たれていない。僕は標本みたいなもの。自分の国の言葉も文字も知らなかった。創氏改名で名前も

金谷光原^{かなやみつはら}に。心の芯まで日本語で育っちゃったんだね。若い世代に知らすことができるものはあるんだろうなと思っている」

―在日コリアンの存在を、一貫して積極的に捉えてきました。

「在日朝鮮人は、この場合の朝鮮は総称ですが、本国の分断の余波を受けざるを得ず、親子やきょうだいで政治信条や国籍が違い対立する例もままある。しかし、ともあれ共に暮らし、冠婚葬祭も一緒に営んできた。いやが応でも『一つところ』を生きてきた。表現の自由が一定保障された日本で、南北の実情もいち早く知り得る。民族の融和を先取りしている存在だ、と考えてきたわけです」

―兵庫県立湊川高校(定時制)で、在日外国人として初めて正規